

地域とともにある

勢いのある学校

No. 42 (R3. 3. 22発行) 文責 校長 福田雅也

【令和2年度 最終号】

# 高き志【こころざし】

## 6年生ありがとう…そして、おめでとう

いよいよ令和2年度も終わろうとしています。先日行われました年度末のPTA例会でもお話しいましたように、この一年間、コロナ禍の中で一時は教育課程が終了できるかどうか心配しましたが、保護者の皆様のご協力とご支援により教育活動を全て無事に終えることができそうです。本当にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

ここ数日、急に暖かい日が続いています。桜の開花も宣言されました。暖かくなるのは嬉しいことですが、春が近づくと明るい気分にもなりますが、同時に、どこかで寂しさを感じる時期でもあります。それは、卒業で、子どもたちとの別れがあるからです。

それぞれ個性が光る素敵な大人に成長した皆さんに、また会える日を楽しみにしています。

皆さん二十一人の前には、大きな可能性が無限に広がっています。しかし、それだけに、大きな困難や悲しいこと、くやしいことにも出会うでしょう。そんな時、この言葉を思い出して踏ん張ってくれたらと思います。

失敗の経験は、その後成功するためのプロセスなのです。視点を前向きに変えれば、新しい道が開けてくることがあるので

無限の可能性をもつ卒業生へ  
私の実験において  
失敗など  
一度たりともしていない  
「これでは電球は光らない」  
という発見を  
今までに  
二万回してきたのだ  
トーマス・エジソン

無限の可能性をもつ卒業生へ

福田 雅也

上の言葉は、誰もが知っているエジソンが言った言葉の一つです。エジソンは、電球を発明するために二万回も実験を繰り返して、失敗を重ねてきたのです。この言葉から二つのことが学べますね。一つは、失敗を重ねてもあきらめずに頑張れば成功につながるということです。もう一つは、物事を前向きに考えることが大切だということです。

今日は、6年生の修了式でした。式では、トーマス・エジソンの言葉を引用し、上のような話をしました。この文章は、話の内容をまとめたものです。明日に卒業式を控えた6年生は、きりりと引き締まった表情で、真剣に私の話を聞いてくれました。これから、希望の未来が待っている子どもたちに、あまり説教じみたことは言いたくなかったのですが、御船町の未来を担っている大切な存在ですので、このような言葉を贈ることにしました。

これまで、高木小学校の顔として、学校を引っ張ってくれた21名の6年生。素晴らしい頑張りや、ほめてあげたいことはたくさんあります。それらは、明日の式辞の中で話をしようと思っています。この紙面では、最後にお礼とお祝いの言葉で終わりたいと思います。

「21名の6年生、ありがとう…そして、おめでとう」